

開催概要

■開催概要

日 時：令和元年12月15日（日）

11時開場，13時開演，16時30分終演予定

会 場：京都コンサートホール 大ホール（京都市左京区下鴨半木町1-26）

■主 催

文化庁，京都府，京都府高等学校文化連盟

■特別後援

公益社団法人全国高等学校文化連盟

■後 援

京都市，京都府教育委員会，京都市教育委員会，関西広域連合，京都府公立高等学校長会，京都府私立中学高等学校連合会，京都商工会議所，一般社団法人京都経済同友会，京都新聞，朝日新聞社，毎日新聞社，読売新聞京都総局，産経新聞社，日本経済新聞社大阪本社

■内 容

令和元年度全国高校生伝統文化フェスティバルー伝統芸能選抜公演ー

○郷土芸能部門 岩手県立花巻農業高等学校「鹿踊（ししおどり）」

神戸市立神港橋高等学校「獅子舞・龍舞」

沖縄県立八重山高等学校「八重山芸能」

熊本県立鹿本農業高等学校「肥後民謡」（特別枠）

石川県立輪島高等学校「和太鼓」

○日本音楽部門 名古屋市立菊里高等学校「箏曲」

関西創価高等学校「箏曲」

○吟詠剣詩舞部門 佐賀県高等学校文化連盟 吟詠剣詩舞専門部「吟詠剣詩舞」

出演団体の紹介

【郷土芸能部門（伝承系）】

かすがりゅうはなのうししおどり

〈春日流花農鹿踊〉岩手県立花巻農業高等学校 鹿踊部

本校は、明治40年に創立され、詩人で童話作家の宮沢賢治が教鞭を執ったことで知られており、賢治が在職中に作った「精神歌」を歌い継いでいる。校是は「農で学び 農で育ち 農で生きる」。鹿踊部は、花巻市東和町「春日流落合鹿踊保存会」の御指導を仰いで始まり、創設61年目。昨年度は、歴代部員念願の全国高総文祭優秀校東京公演に出演。毎年、地元の祭りや老人施設の慰問など年間約30回の公演を行っている。9月に行われる「花巻まつり」は、20を超える鹿踊の団体が路上で競演し迫力があり、落合鹿踊保存会と共に参加している。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】

郷土芸能部門 最優秀賞・文部科学大臣賞 (H30)

なんしゅうししまい・ふくしゅうりゅうまい

りゅうしだん

〈南獅獅子舞・福州龍舞〉神戸市立神港橋高等学校 龍獅團

伝統ある神港高等学校と兵庫商業高等学校を再編・統合して設置された高校。生徒会が、神戸市地域無形民俗文化財に指定されている南京町の「春節祭」に着目し、文化祭で披露して以来、特色部として活動。神戸の伝統芸能を青少年の教育・育成に生かし、先人から受け継いだ技術と伝統を守り、阪神・淡路大震災以降、南京町での行事には毎年出演している。シンガポール・マレーシアで開催された龍舞の国際大会で、シンガポール大会3位、マレーシア大会2位の成績を収めた。神戸南京町の中秋節・春節祭の他、県外からの出演依頼もあるなど、幅広く活動。老人保健施設慰問等にも取り組む。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】

郷土芸能部門 出場 (H30)

優秀賞・文化庁長官賞 (H28)



★鹿踊は、鹿の供養から始まり、五穀豊穡と天下泰平への祈願が舞踏化された芸能といわれています。竹に幣束を巻いた長さ2.4mの「ささら」を背負い、総重量15kg程ある装束を身に付け、太鼓を打ち鳴らし、頭（かしら）を振りながら謡い踊ります。仲立ちと呼ばれる中央の雄鹿の合図で群れの動作は変わります。



★獅子舞は、中国南方系の獅子舞で主に祭りや祝い事などで披露します。龍舞は九人一組で滑らかなラインやアクロバティックな動きを表現します。また、獅子や龍の鼓動を表す太鼓の音やたくさんの珍しい楽器も見どころです。楽しむことを忘れず、最後まで笑顔で会場を私たちのパワーで包み込みます。見ている方々の目や心に深く残るような、印象的な演技となるよう頑張ります。

きゅう び くがにび
 〈八重山芸能「今日が日ば 黄金日ば」〉
 沖縄県立八重山高等学校 郷土芸能部

日本の最南端沖縄県八重山諸島石垣島にある普通科の高校で、「師弟同行」の校是のもと約700人の生徒が学ぶ。郷土芸能部は、創部56年部員数35名からなり、過去には、国立劇場公演にも出演するなど伝統ある部活動である。「心からの笑顔」を合言葉に、地域や保護者の皆さんに感謝しながら、郷土芸能に取り組む。全国高総文祭では、過去、文部科学大臣賞を受賞、その他、八重山郡内・沖縄県内の地域行事やイベントへ多数出演するなど活躍。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】
 郷土芸能部門 優良賞 (H30)
 出場 (H29)

たばるざか やまがとうろう
 〈肥後民謡（おてもやん・田原坂・山鹿灯籠）〉
 熊本県立鹿本農業高等学校 郷土芸能伝承部

九州のおへそ、熊本県の北部に位置する山鹿市に位置し、106年の歴史ある高校。菊池川が流れ、東には阿蘇の雄大な山々がそびえる平野で、4学科が専門的な学習に励む。郷土芸能伝承部は、創部32年の部活で、近年では、東京ドームや東北3県、タイ王国への遠征など、県内外、国外の公演も実施。くまもと県民文化賞受賞、全国高文祭には8回出場（文化庁長官賞の受賞歴あり。）、民謡民舞全国大会に出演、国立療養所菊池恵楓園に25年連続出演、ふるさとまつり3年連続出演するなど活躍。また、日韓おまつり、全国邦楽コンクール、日本最古の山城まつり、高知よさこいまつり、日本財団ソロプチミスト表彰、日立郷土芸能大祭、FFTタイ交流、その他県内外のおまつり、式典に出演、地元老人ホームへの慰問など、年30～40回の舞台に積極的に取り組んでいる。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】
 出場なし



★「今日が日ば、黄金日ば」は今日の日は最高の日だという意味で、沖縄県竹富町黒島で唄われている歌詞によく出てくる言葉です。黒島保里村の民俗芸能で構成された舞踊「笠おどり・コームッサー・黒島口説・正月ユンタ」を披露いたします。「心からの笑顔」をモットーに元気いっぱい努め、この舞台で唄い踊れることへの感謝の気持ちを込めて表現します。



★火の国熊本に伝わる3曲の民謡を披露します。演じるのは、熊本の女性を象徴する人物「おてもやん」、国内最後の内紛・西南戦争より「田原坂」、そして地元・山鹿市の芸能「山鹿灯籠」です。頭上に掲げる和紙と糊だけで作られた繊細な紙細工、灯籠の美しさもご覧頂ければと思います。熊本地震から3年以上が経ちました。多くの建物や皆の心は、深く傷つきましたが、日頃から、県民の皆様へ僅かずつでも元気になって頂こうと、交流や集いもしています。今回も、熊本の魅力を存分にPRしたいです。

【郷土芸能部門（和太鼓）】

わじまたいさい

〈輪島大祭〉 石川県立輪島高等学校 和太鼓部

本校は、自然豊かで人情にあふれる輪島市に大正12年に設置され、今年で創立96年を迎える。能登北部中等教育の拠点校として、その伝統を築き上げ、多くの生徒がさらなる飛躍を目指し文武両道に励んでいる。和太鼓部は今年で創部9年目を迎え、主に学校行事や地域のイベントに出演、全国高校生太鼓甲子園に参加するなど「明るく元気に」をモットーに積極的に活動している。高総文祭等の大会出場、その他地域のイベントに多数出演している。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】
郷土芸能部門 優秀賞・文化庁長官賞 (H30)

【日本音楽部門】

〈箏曲「グリーンウィンド」〉

名古屋市立菊里高等学校 箏曲部

名古屋市の東山動植物園に隣接する緑豊かな学校で、明治29年創立の伝統校。普通科と音学科があり、自主自律の教育目標のもと、文武両道を目指しながら勉強と部活動の両立に力を入れている。箏曲部も練習計画を生徒が自分達で決め、部員が自主的に活動をしている。平成14年から平成30年までに16回全国高総合文祭に出場。その他、名古屋市教育祭、校内の各種演奏会、周辺地域の施設とコラボした演奏会や文化劇場のイベントなどに参加。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】
日本音楽部門 優良賞 (H30)
文化庁長官賞 (H29)
出場 (H28)



★「輪島大祭」は、晩夏を彩る四つの祭りの総称で、古くから輪島に伝わり、キリコ（奉燈）祭で打ち鳴らされてきた道中囃子と止まり太鼓を舞台用にアレンジしたものです。「輪島大祭」のむせかえるような熱気を高校生らしく元気一杯に表現しますので、能登輪島のお祭りの雰囲気を感じていただければ幸いです。



★緑の中を駆け巡る風の様子を描いた曲で、箏2パートと十七絃で構成されています。風の流れや木々の動きを緩急のある賑やかな曲調で表現し、厚みのあるメロディと華やかな箏の掛け合いが曲を引き立たせています。各章ごとに異なる「風」が吹き抜けていく様子を表現するために、様々な技法を丁寧に作り上げ、力強く迫力のある演奏を目指して練習してきました。

〈箏曲「琉球民謡による組曲」〉関西創価高等学校 箏曲部

万葉の故郷、大阪府交野市にある本校は、開校当時から「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」との信条のもと、人生と社会に価値を創造しゆく世界市民の育成を目指している。また平成27年度に文部科学省よりSGH（スーパーグローバルハイスクール）に認定され、生徒一人ひとりが教養と豊かな国際感覚を身に付けている。全国高総文祭には平成14年から18年連続18回出場し、文化庁長官賞や優良賞を13回受賞、優秀校東京公演は9回出演。その他海外からの来校者・お客様への歓迎演奏、地域交流の場である桜まつり・オープンキャンパスでの演奏など行っている。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】

日本音楽部門 文化庁長官賞（H28, H30）
優良賞（H29）

【吟詠剣詩舞部門】

はがくれ 〈構成吟「葉隠」〉

佐賀県高等学校文化連盟 吟詠剣詩舞専門部

本専門部は平成28年に発足。それまで個人で吟詠や詩舞を習っていた高校生はいたが、佐賀県ではこの年から高校の文化活動の一つとして取り組み始め、致遠館高校には吟詠剣詩舞同好会ができ、吟詠や剣舞に取り組む高校生が増加した。校内の文化祭での発表をはじめ、平成29年には佐賀県高文連総合開会式で発表した。また、高校生だけの大会を毎年11月に開催。全国高総文祭には平成28年度から連続出場している。本フェスティバルでは、県内3校の生徒による合同チームで公演。

【全国高総文祭での成績（過去3年間）】

吟詠剣詩舞部門 出場（H28, H29, H30）



★この曲は琉球の代表的な民謡である安里屋ユンタと八重山地方に古くから伝わる哀愁ある旋律「トバルマ」を素材とし作曲された幻想曲風な組曲です。曲が持つ世界観を大切に、高校生ならではのダイナミックで心弾む音楽をお楽しみいただければと思います。



★「葉隠」は人の生き方について述べた書であり、その神髄は、人のためになることをせよ、です。最後の演目は佐賀の儒学者草場佩川の漢詩で、彼は学問を山登りに例え、学んでいけば新たに広がる景色を見ることができる、と述べています。彼の教えを受けた大隈重信や副島種臣は幕末維新で活躍します。佐賀県チームの主体は高校入学後に部活動として吟詠や剣舞の練習を始めた生徒たちです。一生懸命練習してきた成果を披露します。